

山梨県富士河口湖町

【活動概要・効果】

☆五感に訴える観光地づくり

〇町をまるごと博物館とする「フィールドミュージアム構想」を立ち上げるとともに、自然環境を活かし、人間の五感（視・聴・嗅・味・触）に訴える観光地づくりを進めるために「五感文化構想」を掲げ、体験型を主体にした施設整備を進め、富士桜ミツバツツジまつりなどの様々なイベントも展開している。また、外国人観光客の来訪促進に力を入れている。

☆五感に対応した観光・文化・体験施設を整備し、各種イベントを織り交ぜながら、国内のみならず、国際観光地として発展している。外国人観光客は平成15年は約10万人だったものが、平成18年には、約17万人に増加している。また、冬場の観光客数増加を図るため、「冬花火・湖上の舞」（冬の花火大会）や「ウィンターフェスティバル」等冬季イベントを催行し、通年型観光地を目指している。



朝焼けの富士山とラベンダー（大石公園）

【現場の声】

観光を基幹産業とする町として、一年を通じて多くの観光客にお訪ねいただき、ご満足いただけるように、観光の基盤である自然環境の保全に留意しながら、観光振興に必要とされる施策を積極的に展開してきました。

前例にない新しい施策を実行するときには、行政の所管の縦割りや前例主義、費用の不足、法令等との整合など克服すべき障壁がある場合がありますが、必要な施策の実現のために八方に手を尽くすという熱意をもちながら実現を図ってきました。

～富士河口湖町企画課企画調整官

《人員確保での工夫・苦労》

フィールドミュージアム構想を進めるためには、一人でも多くの地域住民の参画が欠かせません。このため、美術館やステラシアターの運営ボランティアの登録、ネイチャーガイドの養成など、地域住民の方々がお持ちの関心や得意分野に応じて参画できるような機会づくりを心がけてきました。

《活動資金確保での工夫・苦労》

様々な施設の整備やイベントの実施においては、活用可能な補助金等を極力適用するよう努めることはもちろんですが、ランニングコストを意識しながら効率的な運営を心がけるとともに、収益をできるだけ運営に還元して少しでも独立採算に近づけるよう、経営感覚を重視した施策展開を行ってきました。



河口湖冬花火